

レビュー

「聖書が教える親の道」

0歳から20代へのペアレンティング

著者 ダン・ギルクライスト

2004年の11月に長野県の白馬村で開かれたチア日本コンベンションに参加した家内が、メイン・スピーカーであるギルクライスト氏のお話を聞いて感激し、ちゅうちょせずに本書を求めた。私も大会の合間を縫ってページを繰り、同氏の分科会に出席して学び、穏やかで確信に満ちた語り口に引かれた。

著者夫妻は、二人の子どもを巣立たせた。また、公立校の教師を13年、またクリスチャンスクールの校長を6年務めたベテラン教育者である。全米で、家庭教育セミナーの講師として広く用いられていることもうなづける。

Bible Parentingという原題の通り、最大の特徴は、聖書の教えをアウトラインにしていることだ。聖書的な親となっていくための7つの土台とは、重要さの順番に、

- 1 イエス・キリスト
- 2 両親
- 3 父親
- 4 母親
- 5 愛
- 6 教え

最後に、懲らしめである。

この7つがそれぞれ各章を構成し、各章が短いセクションに分割されている。全体は400ページと大部なのに、実に論理的に構成され美しいレイアウトであるため、すなおに頭に入る。セクションの終わりには大切なフレーズが枠内に太字で書かれており、重要ポイントを再確認できるのもうれしい。

6章の「子どもを教える」に紹介された、「家族のデボーションに役立つ創造的なアイデア」から抜き出して読んでみよう。

「私の子どもが6歳と4歳のときに、使徒パウロがわが家にやって来ました。私は使徒の働きをよく勉強し、この偉大な使徒になりきる準備をしました。夕食が終わったら、私は隠れてバスローブとサンダルを身に着け、頭にタオルを巻き、めがねをはずしました。ほうきの先をとりはずして柄の部分だけにして、杖の代わりにし、そっと家の外に出て（近所のだれにも見られないことを祈りながら）、わが家の扉をノックしたのです。妻のジュディーが家の中にいましたから、『だれがノックしているのか、聞いてきなさい』と子供たちに言いました。

私は家に入り、自分がパウロだと明かしてから、神がどのようにして自分を用いてくださった

のかを話すためにこの家を訪問したと告げました。そのときの、子供たちの見開いた目とぽかんとあいた口を、私は今でも思い出すことができます。子供たちは座って話を聞いていました。しかし6歳だったリサは、やがてくすくす笑い出し『ねえ、ほんとはお父さんでしょ、そうでしょ』と言うのでした」

「その夜、子供たちは何かを学んだでしょうか。正直に言って、彼らが使徒パウロから何かを学んだかどうか、私にはまったくわかりません。しかし、彼らは、父親がどれほど自分たちを愛してくれているか、神がどれほどすばらしいお方であるかを少しは知るようになったと思います」

私も、子どものデボーションには色々な本を使ったが、自分が聖書の人物になり切って演じるということは思いもつかなかった。もっと早くこの本に出会っていたらよかったのに。

本書では、聖書がふんだんに引用される。特に箴言が子育てについてこれほど多くを教えていたのかと驚かされる。

ギルクライスト氏はまた、子どもに影響力を持つ二つのもの、テレビと音楽についてもそれぞれ一セクションを割いている。

「テレビに出てくる人々は、私たちが招くときにだけ私たちの家庭にやってくることができます。招くということは、彼らのライフスタイルを承認したということです。もし毎週決まってその人を招いているとしたら、なおのことです」

「この世の音楽と教会の中の音楽が似かよっているなら、私たちは問いかけなければなりません。どちらがどちらをまねているのかと」

「敬虔な子どもを育てたいと思う親は、音楽の問題をしっかりと扱わなければなりません。私たちの子供は、音楽という媒体から多大な影響を受けます。もし私たちが聴く音楽の音量が大きく、ビートが強烈で、歌手が叫んでいるなら、私たちがまかされている子供たちは、私たちの教えや訓練を受け入れにくくなってしまおうでしょう」

これら現代のメディアをどう考えるかは、人により意見が別れるだろうが、本書がクリスチャンの親を立ち止まらせ、考えさせてくれることはまちがいない。一人で読むのもよいし、各セクションが短いから毎日の夫婦のデボーションに使うこともできる。